



園だより

令和 7年 6月 1日
佛教大学附属こども園

「仏教保育 6月のねらい」
せいめいそんちよう
生命尊重

「イモムシさん寝た」

あっという間に気温が高くなりました。雨が降る日もありますが、園庭にいる小さな生き物たちも動きが活発になる季節です。子どもたちはダンゴムシやアゲハの幼虫などを見つけては保育者や友だちに「見て、見て」と報告します。今月は生き物と少しずつ仲良くなっていく2歳児の姿を紹介します。

Aちゃんが幼虫を手に、保育者のもとに「見て」とやってきました。カナブンの幼虫かな…？愛おしそうに幼虫を眺めています。でも動きません。

保育者が「あれ？寝てる？」と声をかけると、Aちゃんは指で触れてみます。

幼虫はモゾモゾ動き、そしてAちゃんはウフツと笑います。

保育者が「起きたね」とまた声をかけました。

Aちゃんが指で触れながら眺めていると、幼虫の動きがピタッと止まりました。

Aちゃんは一言「寝た」とつぶやくのです。

保育者が「イモムシさん、眠たいね。ふかふかの土のベッドで寝かせてあげようか…」と声をかけると

Aちゃんは身近にあった土の入ったカップに幼虫を寝かせました。

そして、葉っぱをそっとかけてあげた後も幼虫を眺め続けていました。

いつも自分がしてもらっているように、幼虫に優しく布団をかけたのでしょう。

言葉は多く語らないですが、幼虫への優しい思いが感じられた一つのエピソードです。

6月の保育のねらいは「生命尊重」（生き物を大切にしよう）です。このエピソードでは、幼虫にも自分たちと同じように「生活があること」を思い描いています。虫たちにも「ごはんを食べたり、寝たりする」「お母さんがいる」などと自分たちと同じような暮らしがあることを思いめぐらしながら命の大切さを感じ取っているように思えます。

そして日ごろから自分が大切にされていることを感じているからこそ、虫や生き物、周りの人を大切にするができるようになるのではないのでしょうか。

あなたの存在が「嬉しい」「大切」と伝えることのできるかわりを心がけていきたいものです。言葉だけではなく、布団をかけたり、手をつないだり、危ないことをしているときには本気で叱ったり・・・。

そんな営みの中で自分の命もかけがえのないものだ気付くのでしょうかね…。

副園長 村上真理子

